

織田鷹洲 然し、農業史家、漢詩人。天保十三年九月十八日（二河國額
 田郡高須生れ、大正十一年一月十八日歿（八四二—九三三）。諱元之、字
 士全、幼名策馬。號冥賓、平の^{たひら}とよき、鷹洲外史、鷹洲逸人、鷹洲
 逸史。安政六年松本奎堂の門に入り、翌年教頭。のち勤皇運動に加は
 り、慶應二年幕府側近の嫌疑を以て岩國藩に捕はれ、明治二年まで幽
 閉。同年若松縣學堂創設に携はり、爾後大藏省記録寮、内務省勸業寮
 を經て、十四年農商務省農務局に入り、農書收集、農功事蹟調査、『大
 日本農史』の編纂著述等に從事した。また西洋農法の導入に反對し、
 日本在來農法を評價。江庵著・佐藤信淵筆記『十字號養培例』（明治
 五年）二月織田氏藏版）、佐藤信淵著『田畠年中行事』（明治十年十一
 月織田完之出版、西山堂發兌）等を校訂出版するほか、信淵、二宮會
 徳の紹介顯彰に努めた。隱退後、碑文協會を創設。漢詩の他、和歌と
 能くした。

著書に『厚生利用集』（明治二十四年八月）『博文館』（『將門記傳』
 ）（明治二十八年七月八日會道社）、『平將門政蹟考』（明治四十年六
 月）『二十五日碑文協會』（『楠公夫人傳』）（大正四年六月）『二十八日楠公
 夫人遺蹟保存會』等。松本修撰『鷹洲刊書記』（明治四十五年二月）『
 日碑文協會』（『鷹洲織田完之先生
 小傳』）（昭和四年一月十八日織田雄
 次編輯）がある。

